



アメニティゾーン(快適環境地域)完成予想図

自衛隊・留萌高校周辺

留萌市では、二十一世紀を展望した新しいまちづくりのため多くの事業を進めています。さらに、将来予想される、余暇活動の活発化と多様化に対応を進めなければならぬ所があります。昭和62年の新春にあたり、五十嵐市長のまちづくりに対するビジョンの一端をご紹介します。

広域観光ランド構想とは、留萌市の特性である海と緑に恵まれた美しい自然景観を十分活用し、市民や観光客が自ら体験・参加することのできる道北・道央圏の観光レクリエーション基地づくりを目指すことを目的とする構想です。では、この構想によって市内の観光レクリエーション施設がどのように変わるのかご紹介しましょう。

千望展望台と

生活環境保全林

千望展望台は、留萌市街を一望でき晴天の日は遠く利尻富士を望めることができる市内で一番高い所にある市民の

礼受牧場

浜中運動公園、生活環境保全林に隣接する礼受牧場は、200ヘクタールの草地整備を終え牛馬180頭が放牧されています。将来は、市民が広大な牧場

黄金岬海浜公園と浜中海水浴場

黄金岬海浜公園は、道北唯一の岩礁地帯で、そこから眺める落陽は日本一とも言われています。

また、国道23号線の開通にともない日本海オロロンラインの中継地としてクローズアップされ、昨年は大規模な工事が行なわれましたがより一層、この周辺の整備を進め、市民のレクリエーションの場をつくりたいと考えています。

浜中海水浴場は、現在、浜中から瀬越まで離岸堤を延長する工事が行なわれています。また、将来、浜中海水浴場

浜中運動公園

近年、スポーツに対する要望が極めて高く各種運動施設の整った公園、運動の目的以外にも散策・ピクニック等、多くの利用に対応できる公園として市民に親しまれる運動公園にしたいと考えています。

アメニティゾーン(快適環境地域)

この計画は、国道23号線の拡幅・留萌川改修、栄萌橋架換にともない、これを単なる道路・河川・橋架整理として実施するだけでなく、人と自然のふれあいの場となる親水空間の創造を含めた総合的整備(快適環境地域)として進める計画です。

最後に……

このように、広域観光を構想しておりますが、これから、さらに市民の皆さんのご意見をいただいてよりよい計画に発展させたいと思っております。



新春 市長が語る

こう いき かん こう こう そう 広域観光ランド構想

構想……考えをめぐらして組み立てること。

物産館 (黄金岬海浜公園内)